

情緒学級の教室環境チェックリスト

子どもが迷わず、安心して、自分で動きやすい教室を作るために

使い方：すべてを一度に完璧に整える必要はありません。4月の準備や年度途中の見直しで、子どもの実態に合わせて必要なところから確認してください。

1. 教室全体

- ☐ 教室内の物が多すぎない
- ☐ 使っていない教材や道具を出しっぱなしにしていない
- ☐ 子どもが移動しやすい動線がある
- ☐ 机や椅子の間に余裕がある
- ☐ 教室の後方や隅に余白のスペースがある
- ☐ 必要に応じてクールダウンに使える場所がある
- ☐ 教室に入ったとき、どこで何をやる場所が分かりやすい
- ☐ 子ども同士が刺激し合いやすい配置になっていない

2. 教室前面・黒板周り

- ☐ 教室前面がすっきりしている
- ☐ 黒板周りに授業と関係ない掲示物を貼りすぎていない
- ☐ 子どもが「今見るべき場所」を分かりやすい
- ☐ 黒板には、その時間に必要な情報だけを出している
- ☐ 授業の流れを示すカードや掲示をできるようにしている
- ☐ 作品やカレンダーなどは、必要に応じて背面や側面に掲示している
- ☐ 教師用機の周りが雑多になっていない
- ☐ 子どもが気になりやすい物を前面に置いていない

3. 予定・見通し

- ☐ 一日の予定が見える形で示されている
- ☐ 児童ごとの予定を確認できる
- ☐ 交流学級へ行く時間が分かる
- ☐ 今日の予定だけでなく、必要に応じて明日の予定も確認できる
- ☐ 予定変更を伝える場所や方法がある
- ☐ 終わった活動が分かるようになっている
- ☐ 子どもだけでなく、支援員や他の先生も予定を把握しやすい
- ☐ 予定が担任の頭の中だけで管理されていない

4. 物の置き場所

- ☐ 児童ごとのロッカーや持ち物置き場が明確になっている
- ☐ ランドセルや手提げを置く場所が決まっている
- ☐ 連絡帳を出す場所が決まっている
- ☐ 宿題や提出物を入れる場所が決まっている
- ☐ プリントや配布物を入れる児童ごとのかごがある
- ☐ 文房具の置き場所が決まっている
- ☐ 教材の置き場所が決まっている
- ☐ 使った物をどこに戻せばよいか分かる
- ☐ 物があるかないか、一目で分かるようにしている
- ☐ 物の数を必要以上に増やしていない

5. 教師用の物・触ってほしくない物

- ☐ 教師用の文房具や教材を出しっぱなしにしていない
- ☐ 子どもが勝手に触ると困る物を手の届く場所に置いていない
- ☐ はさみ、カッター、薬品、個人情報資料などの管理場所を決めている
- ☐ 教師の机や棚を必要に応じて施錠できる
- ☐ 子どもに「触ってから叱られる」状況を作っていない
- ☐ 触ってよい物と触ってはいけない物が分かりやすい
- ☐ 共有物と個人物が混ざらないようにしている

6. 座席配置・スペース

- ☐ 一人で学習に集中しやすい座席配置になっている
- ☐ 子ども同士の距離が近すぎない
- ☐ 刺激し合いやすい子ども同士の席を調整している
- ☐ 周囲の動きが気になりやすい子への配慮をしている
- ☐ 教師が子どもの様子を見取りやすい配置になっている
- ☐ 支援員の先生が入りやすいスペースがある
- ☐ クールダウンに使える場所を、罰の場所として扱っていない
- ☐ 年度途中で配置を変えられる余白がある

7. 朝・授業・帰りの支度

- ☐ 朝の支度の流れが分かるようになっている
- ☐ 授業準備で何をせよばよいか分かるようになっている
- ☐ 次の授業や活動に必要な物が分かる
- ☐ 帰りの支度の流れが分かるようになっている
- ☐ 文字だけでなく、必要に応じて写真やイラストを使っている
- ☐ 子どもが掲示を見ながら自分で動けるようにしている
- ☐ 最初は教師と一緒に確認し、少しずつ手を離す意識を持っている
- ☐ 教師が毎回すべてを口頭で指示しなくてもよい仕組みがある

8. 子どもの役割・係活動

- ☐ 子どもが無理なくできる役割を用意している
- ☐ 係や仕事の内容が分かりやすい
- ☐ 最初は教師と一緒にできる形にしている
- ☐ 続けることが難しい場合は、内容や頻度を調整できる

- ☐ 仕事が終わったかどうか分かる仕組みがある
- ☐ 役割が子どもの負担になりすぎていない

- ☐ 子どもに感謝を伝える機会として役割を活用している
- ☐ 役割を通して、教室の一員である感覚を持てるようにしている

9. 掲示物・作品

- ☐ 掲示物を貼りすぎていない
- ☐ 授業中に気が散りやすい場所に刺激の強い掲示物を貼っていない
- ☐ 子どもの作品を掲示する場所を決めている
- ☐ 今月の予定やカレンダーを必要に応じて掲示している
- ☐ 子どもの頑張りや積み重ねが見える工夫がある
- ☐ 文字だけでなく、写真やイラストを必要に応じて使っている
- ☐ 誰が見ても分かりやすい掲示になっている
- ☐ センスよりも分かりやすさを優先している

10. 見直しの観点

- ☐ この環境は、子どもが迷わず動く助けになっている
- ☐ この環境は、余計な刺激を減らすことにつながっている
- ☐ この環境は、教師の不要な注意や指示を減らしている
- ☐ この環境は、子どもが自分でできることを増やしている
- ☐ この環境は、支援員や他の先生も使いやすい
- ☐ この環境は、年度途中で調整しやすい
- ☐ 必要な支援まで減らしてしまっていない
- ☐ 子どもの実態を見ながら、少しずつ環境を調整している

見直しメモ：迷ったときは「子どもが迷わず動けるか」「余計な刺激を減らせているか」「教師が注意しなくても済む仕組みになっているか」「子どもが少しずつ自分でできるようになるか」を確認します。